

助成事業実施報告書

団体名 国立駅前大学通り商店会

代表者・役職名 氏名 秋田康佑

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

「国立のまち」歴史物語シリーズ刊行プロジェクト

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

本会の目的は国立来訪する人たちに喜んでもらうとともに、各団体と連携して、魅力ある街づくりに励むことである。1993年に国立駅前の街路灯など環境の維持向上を図ることが共通課題となったため発足した。具体的な活動として、①緑地・国立駅周辺整備に伴うまちづくり活動への参画 ②クリスマスイベントの実施 ③放置自転車対策 ④緑地帯の整備 ⑤会員相互の親睦を行っている。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

平成31年(令和2年)の春、国立駅に町のシンボルだった三角屋根駅舎が復元される。これを好機とし、国立や周辺の市民など駅を利用する人たちに国立の魅力メッセージする。そのため3年間にわたる手軽な読み物風の「国立のまち」歴史物語シリーズを刊行する。あわせて関連の市民フォーラムを開催。そのことで国立市民には街への誇りを、訪問者には国立駅への関心を、地元商店街には賑わいづくりの気運を高めていく。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

本プロジェクトは三角駅舎復元までの3年間を計画期間とし、国立の活性化を目標とする。1年目の平成29年度は「景観都市・国立のまち」の歴史を、2年目の平成30年度は「国立文化の町づくり」をテーマに文化のまち国立の歴史を刊行、あわせて市民交流フォーラムを開催してきた。

最終3年目の平成31(2018)年度は、「賑わいのまち国立」をテーマに、駅前商店会の昭和～平成の歴史と商店会の取組み(三角駅舎復元、天下市、朝顔市、Xマスツリー、パリ風街路灯など)を取材。また近隣の国分寺市、立川市などの歴史ともからめ、周辺自治体との広域的な活動も紹介する。それを冊子「国立のまち歴史物語(賑わい編)」として刊行し、併せて市民交流フォーラムを開催する。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

3回シリーズの最終号としての第3号は、「賑わいのまち国立」として500部を編集発行し、商店街を中心に広く市民に頒布された。また冊子の刊行後に、当該冊子をテキストに、国立市観光まちづくり協会との共催で、復元三角駅舎内で「市民講座」(国立学)を開催する企画をたてた。しかしこの駅舎内講座は、コロナ禍の影響で開催不可となり、今日に至っている。とくに三角駅舎オープン時(2020年3月)には拡大フォーラムを企画したが、この開催もキャンセルとなった。残念である。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

本プロジェクトは、3年間のシリーズとして、1年目は「国立の景観まちづくり」、2年目(2018年)は「国立の文化・文化人」、3年目は「国立駅前の賑わいづくり」をテーマにした。地域の歴史文化の広範なテーマを発信することで、①国立市民の地域への愛着と誇りの涵養、②国立駅来訪者への情報提供、③国立駅前商店街の集客軸づくり に貢献できたものと思っている。

今後、コロナ禍の一定の収束を待って、機会を見つけ市民に配布し、あるいはその冊子を活用した「国立のまち歴史物語」シリーズの市民講座の復活を図っていきたいと考えている。

7. 参考資料

①支援対象プロジェクトで作成した冊子	参考資料あり
②読売新聞で紹介された記事等のコピー	

国立のまち歴史物語

に
ぎ
わ
い
編



国立大学町を眺める婦人像 大正 14 年

国立のまち歴史研究会編



国立大学町鳥瞰図 大正 14 年